

港町・横浜に響く「ラ・カンパネラ」 孤高の天才を、ファン垂涎の演目で聴く

チェロのヨーヨー・マからジャズ・ヴァイオリニストの大家ステファン・グラッペリ、ギターのアサド兄弟、東儀秀樹、葉加瀬太郎、高嶋ちさ子、ベルリンフィル・メンバーまで…各ジャンルのトップ・オブ・トップと共演を重ねてきた古澤巖。そのストイックに磨き抜かれた音楽で公演の度に大喝采を受ける彼のソロ・リサイタルが、2025年も開催決定!

今回もジャンルレスな曲目を予定しておりますが、何といっても注目は、そのあまりの技術に「悪魔に魂を売った」とまで囁かれた伝説的ヴァイオリニスト兼作曲家ニコロ・パガニー

ニによるヴァイオリン協奏曲第2番「ラ・カンパネラ」でしょう。この超難曲を、特に後世にも大きく影響を与えた第3楽章〈鐘のロンド〉を古澤巖のヴァイオリンで聴ける機会、そうそう訪れるものではありません。

クラシックにこだわらず、あるいは音楽にこだわらず、ありとあらゆるものを取り入れ、テレビやラジオといった各メディアに出演を重ね発信を続ける彼はまさに「音楽の求道者」。横浜の午後に楽しむ貴重なソロ・リサイタル、前回お越しいただいた方もそうでない方も、必聴です!

IWAO FURUSAWA VIOLIN CONCERT 2025

古澤 巖 (ヴァイオリン) Iwao Furusawa (Violin)

カーチス音楽院でバーンスタイン、チェリビダッケ等に、ヨーロッパでミルシテイン、ギトリス、モーツァルテウム音楽院でヴェーグに学ぶ。内外のコンクール優勝後、86年葉加瀬太郎と「ヴィンヤードシアター」を結成、都響と月1のコンサートマスター兼年間ソリストを6回の特別契約を結ぶ(88-91年)。毎週「Dの旋律」出演中(TV東京/木曜21:54~)、現在武澤秀平氏にバロックを師事、毎年HATSよりアルバムをリリース。年間ベルリン・フィル・ストリングス、コルシカ音楽祭、品川カルテット、Dandyism Banquet等ツアーを行っている。

金益研二 (ピアノ) Kenji Kanemasu (Piano)

作編作曲家・ピアニスト。東京都出身。東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。作曲を近藤譲氏に師事。幼少時からピアノ・エレクトーン(電子オルガン)を始め、クラシックからポピュラー音楽全般まで幅広く親しむ。大学卒業後はバンドネオン奏者田邊義(Yoshihiro Tanabe)氏との出会いによりアルゼンチンタンゴに興味を持ち、06年にはブエノスアイレスにてホルヘ・ドラゴネ(Jorge Dragone)氏にタンゴピアノを師事。08年より世界の音楽とオリジナル楽曲を織り混ぜた独自のスタイルでソロライブ「音の散歩」シリーズを展開。ヴァイオリニスト古澤巖のCD「The Ecstasy Of Gold」(2021)に「Milonga de noche」が収録される他、様々なアーティストへ楽曲・アレンジを提供。ピアニストとしては自身のライブの他に、尺八奏者・渡辺淳氏とのユニット「ウミガメ」や、古澤巖「ヴァイオリンの夜」全国ツアーのピアニストを務める他、柔軟な感性を活かしアルゼンチンタンゴをはじめとした多岐に渡るジャンルのアーティストとのコラボレーション、ミュージカルのオーケストラでの演奏など幅広く活躍中。
楽譜:「碧空に咲く花」(マザーアース)「JAZZアレンジで弾くスタジオジブリ」(ヤマハミュージックメディア)他
CD:オリジナル作品集「音の散歩~おいしい風~」他
日本作編作曲家協会(JCAA)会員。趣味はジョギング。



webサイト:<http://www.kanemasukenji.com/>

